

〇〇 様

お問い合わせのメールを拝見しました。

二つの質問が記されていると思います。

(1) 金持ちとラザロの話は本当に死後の世界について書かれているのかどうかという問い

(2) 私が死んだ後に、愛する者がハデスで苦しんでいるのを見たなら、平安があるかどうかという問い

(1) の質問

●〇〇さん自身は、この話が、死後の世界のことかどうか、どちらだと信じておられるのでしょうか。もし、この話が死後の世界のことだとしたら、神様につまずきますか。私自身、この話はそのとおりの話だと信じています。今日のマスコミで流れてくる死後の行先はどういうわけか、みな天国です。昔は「極楽」と言っていましたが、今は「天国」だと勝手に思って、心の平安を得ようとしています。

●聖書を神中心に読むか、自分の中心の基準で読むかで、聖書で語られる理解が全く変わって行くと思います。聖書を神中心に読むか、人間中心に読むかが二つに分かれるところです。神の敵であるサタンはみなハデスに行ってしまうために、人間が神のように善悪の基準を自分勝手に決められように、食べてはならないと禁じられている木の果を食べるように誘惑しました。へびの言う「神のようになれる」とは、善悪の基準を人間がそれぞれ自分で持つことができるようになれると思わせることでした。サタンのことばを信じた最初の人(アダムとエバ)は、神の言うことよりもへびの言うことを信じたことによって罪を犯し、そのために、神とのかかわりに死がはいました。自分で神のように善悪の基準を持つことができると信じた人間は、そのことで生涯苦しむことになったのです。天国は神のことばを信じる者たちが行くところです。信じられない者がそこに行くことは、天国でも永遠に苦しむことになるはずですが・・・。

●人の言うことばではなく、神の言われることに耳を傾けなければ、決して平安を得ることはできません。これが死のもたらした結果です。この死から救われるように、神は御子イエスをこの世に遣わし、「これに聞け」と命じられました。神との永遠の愛に満ちたかかわりの世界は、神のことばをそのまま信じるかどうかにかかっていると云えます。人それぞれになんらかの神からのチャンスは与えられているのだと信じます。そのように思えない場合でも、私たちは神がなされることのすべてを知ることはできません。

(2)の質問

●たとえもし、愛する者がハデスで苦しんでいるのを見たとしても、私にはどうすることもできません。私自身が自身の意志で生まれたわけではないのと同様に、死に関しても、私の死後の運命に対して神に文句は言えません。たとえ愛する者の苦しみが見えた所で、その人の意志を強制することばできません。ひとりひとりが神に向き合うことが求められているからです。そうならないように、私たちの責任は、自分の愛する者に、神の福音を伝えることしか許されていません。神の世界は、人情を越えた、私たち人間が自分の基準で満足できるような世界ではないと思います。私たちの心に平安が持てるかどうかは、サタンの誘ったことばを信じるのではなく、はっきりとそれに対抗して、神のことばによって生きるときだけです。